

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18036	1	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	体の仕組みと働きⅡ (Anatomy and PhysiologyⅡ)				
担当教員名	高野海哉				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要</p> <p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を看て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力も求められる。その際、身体の異常に気がつく力、異常を知る力が必要になる。正常な身体の仕組みと働きが損なわれると異常となることから、身体の異常とは何かを知り、異常に気がつくには正常な身体の仕組みと働きを知っている必要がある。したがって、人体や人体を構成する器官・臓器について、正常な構造と働きに関する基本的な事項を学ぶ必要がある。</p> <p>本科目は、正常な人体の仕組みと働きのうち、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体を動かすための仕組み（骨格筋と関節、靭帯） (2) 外界からの刺激を判断し、反応を起こす仕組み（神経系） (3) 外界からの刺激を受けとる仕組み（感覚器系） (4) 体内の環境を保ち、各器官が働けるようにする仕組み（自律神経系・内分泌系） (5) 次世代へ生命をつないでいく仕組み（生殖器系） <p>について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業で扱った解剖学・生理学の専門用語を正しく暗記する。 2. 神経系の構造と機能について、授業で扱った内容の範囲で説明できる。 3. 感覚器系の構造と機能について、授業で扱った内容の範囲で説明できる。 4. 骨格筋や関節、靭帯について、授業で扱った内容の範囲で説明できる。 5. 恒常性の維持機構、自律神経系の仕組み、内分泌系の特徴について、授業で扱った内容の範囲で説明できる。 6. 生殖器系の仕組みとヒトの発生について、授業で扱った内容の範囲で説明できる。 					
準備学習等					
<p>受講する準備（予習）：授業1回分に対して30分</p> <p>講義は次ページの「授業計画」に沿って行う予定である。予習として、「講義テキスト」と購入した参考図書において次回予定内容の該当項目を一読し、次回の授業内容を把握しておく。授業内容によっては、次回までにテキストなどを読んでおくことを指示する場合がある（授業中に指示します）。</p> <p>受講</p> <p>講義は授業形式で行われる。各回の授業は進度が早いので欠席すると内容理解が不十分となる可能性が高い。授業を受けた内容を「講義テキスト」にメモを取るなどして記録するようにし、後に復習できるようにする。</p> <p>受講後の復習：授業1回分に対して30分</p> <p>授業後の復習として、授業で「講義テキスト」に書き込んだメモなどを整理し、内容理解に努める。購入したテキストの授業内容に該当する項目も読み、授業内容に追加して理解を深める。この段階で疑問点が生じた場合は、下記「参考図書」で調べるか、担当教員に質問して問題解決を図る。</p>					

成績評価の方法	定期試験 100%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・講義テキスト（前期「体の仕組みと働きⅠ」で配布・使用したもの） ・（基本を学ぶ看護シリーズ）2. からだの仕組みと働きを知る（高野海哉・川岸久太郎・草間朋子 著：東京化学同人）
参考図書	<p>「系統看護学講座 専門基礎① 解剖生理学」（坂井建雄ほか著 医学書院）※（新体系 看護学全書）人体の構造と機能① 解剖生理学（橋本尚詞・鯉淵典之 著 メジカルフレンド社）※</p> <p>「ナーシンググラフィカ① 解剖生理学」（林正健二編 メディカ出版）※</p> <p>「ロス&ウィルソン 解剖生理学」（島田達生ほか監訳 西村書店）※</p> <p>「ヒューマンボディ 原著第3版」（片桐康雄ほか監訳 エルゼビアジャパン）※</p> <p>「人体の構造と機能（第3版）」（佐藤昭夫ほか著：医歯薬出版）※</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開講される「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」を学ぶ上で必要となる解剖生理学的な知識を確認しながら、双方の講義・演習をリンクさせて学習することも念頭に置いて学習してください。 ・オフィスアワーについては、履修案内「オフィスアワー」の項目を参照にしてください。 ・メール (k-takano@thcu.ac.jp) でいつでも質問などには対応します。 ・試験実施後に出題内容に関する解説を行い、答えは返却する予定です。 ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図で確認すること。
授 業 計 画	
<p><身体を動かす仕組み（骨格筋・運動器系）></p> <p>第1回 骨組織と筋組織の特徴</p> <p>第2回 関節と靭帯の仕組み 体幹部を構成する骨格筋の働き</p> <p>第3回 上肢および下肢を構成する骨格筋のはたらき</p> <p><外界からの刺激を判断し反応するための仕組み（神経系）></p> <p>第4回 ヒトの神経系の構成：中枢神経系と末梢神経系の特徴</p> <p>第5回 脳と脊髄の仕組みと働き</p> <p>第6回 末梢神経系（脳神経と脊髄神経）の仕組みと働き</p> <p>第7回 中枢神経系を保護するしくみ（血管系・髄膜・髄液）</p> <p><外界からの刺激を受け取る仕組み：感覚器系></p> <p>第8回 嗅覚器 味覚器</p> <p>第9回 視覚器 聴覚器</p> <p><体内の環境を一定に保つ仕組み（自律神経系・内分泌系）></p> <p>第10回 自律神経系</p> <p>第11回 内分泌系</p> <p>第12回 体温調節と血糖調節</p> <p><次世代に生命をつなぐ仕組み（生殖器系・ヒトの発生）></p> <p>第13回 男性生殖器系</p> <p>第14回 女性生殖器系</p> <p>第15回 ヒトの発生と胎児</p> <p style="text-align: right;">※単元の内容によって順序が前後する可能性があります。</p>	